

2016年1月17日川越教会

夜道を独り歩く

加藤 享

【聖書】ヨハネによる福音書4章46～54節

イエスは、再びガリラヤのカナに行かれた。そこは、前にイエスが水をぶどう酒に変えられた所である。さて、カファルナウムに王の役人がいて、その息子が病気であった。この人は、イエスがユダヤからガリラヤに来られたと聞き、イエスのもとに行き、カファルナウムまで下って来て息子をいやして下さるように頼んだ。息子が死にかかっていたからである。イエスは役人に、「あなたがたは、しるしや不思議な業を見なければ、決して信じない」と言われた。役人は、「主よ、子供が死なないうちに、おいでください」と言った。イエスは言われた。「帰りなさい。あなたの息子は生きる。」その人は、イエスの言われた言葉を信じて帰って行った。ところが、下って行く途中、僕たちが迎えに来て、その子が生きていることを告げた。そこで、息子の病気が良くなった時刻を尋ねると、僕たちは、「きのうの午後一時に熱が下がりました」と言った。それは、イエスが「あなたの息子は生きる」と言われたのと同じ時刻であることを、この父親は知った。そして、彼もその家族もこそって信じた。これは、イエスがユダヤからガリラヤに来てなされた、二回目のしるしである。

【序】宣教活動の開始

ヨハネ福音書に記されている**最初の奇跡**は、ガリラヤ地方のカナという村の結婚祝宴の時に行われました。1週間続く祝いの半ばで、用意されていたぶどう酒が底をついて、**祝宴中止**の事態に直面した時に、主は台所に置かれた清めの水用の大きな水がめ6つに井戸水を満たさせて、それを特上のぶどう酒に変えて、祝宴を続けさせたのでした。**汚れを清める水**も大切だが、私が与える**愛のぶどう酒**はもっと大切だよ、というメッセージが込められた奇跡でした。

そして**第二回目の奇跡**も、同じカナを舞台に行われました。それが今日の箇所です。結婚祝宴での愛のぶどう酒の奇跡の後で、主イエスは、過越祭を守るために**エルサレム**の都に上りました。そして「わたしの父の家を商売の家としてはいけない」と言って、神殿の境内で牛や羊や鳩等の捧げ物を売っている商人や献金用の金を両替している商人を、縄で鞭を作って追い出してしまわれました。**神殿を肅清**しようとしたのです。

それから、ユダヤ人が皆遠回りをして足を踏み入れないサマリア地方を通り、**サマリア人**にも福音を語って、多くの人を導かれてから、ガリラヤに帰って来

られました。このエルサレムとサマリアでの出来事については、山下先生が、元旦礼拝と先週の礼拝で、メッセージを取り次いで下さいました。

〔1〕王の役人への対応

さて今日は、カナで行われた二回目の奇跡です。**カファルナウム**の町から**ヘロデ王の役人**が訪ねて来ました。歩いて一日以上もかかる距離です。それでもはるばるやって来たのは、彼の息子が病気で死にかかっていたからでした。「**主よ、子供が死なないうちに、おいでください**」

ところが主は「そうか。遠路はるばるよく来たね。宜しい。行ってあげよう」とは応じては下さいませんでした。「**帰りなさい。あなたの息子は生きる。**」というお言葉を与えただけでした。この父親はどのように感じたことでしょうか。

私はここを読むと、自分の恥ずかしい過去を思い出します。55年前、東京の目白時代の1月22日に、長男が誕生しました。9日目に病院からタクシーで我が家に連れ帰った時のことです。二軒手前の家の前に大きなトラックが止まっていて、タクシーが進めません。何度クラクションを鳴らしても運転手が出てこないの、仕方なくそこでタクシーを降りました。

1月末のことです。**北風**がヒューヒュー吹きつけてきます。赤ん坊の頭をおおい、身体の中に包み込むようにして歩き出しましたら、やっとその家の中からトラックの運転手とその家の人が出てきました。すると私は、思わず怒鳴ってしまったのです。「**風邪をひかせてしまうじゃないか！**」

「赤ん坊が生まれました。最初の子です」とニコニコ笑って見て頂くという**気持ちの余裕**が吹っ飛んでいました。もう55年も以前のようですが、思い出だけでも、恥ずかしくていたたまれない思いに襲われます。**我が子の命が危ない**と思ひ込むと、**親は狂わんばかりになる**のではないのでしょうか。

カファルナウムからやって来たこの父親は、我が子の**病気が重くなり死にかかっていた**のです。医者よ薬よと力の限りを尽くしたに違いありません。神殿を清めようとしたエルサレムでの主イエスの働きを聞いて、この方しかいないと思ひ詰めて、1日歩き通してカナにやって来たのでした。

ところが「帰りなさい。あなたの息子は生きる。」という言葉を与えられただけ——55年前の私は生まれたばかりの赤ん坊をわずか50メートル冬の冷たい

風にさらすだけでも、心配で怒り狂ってしまいました。

ですからこの父親は、私以上にカーッとになって、「どうして来てくれないのか。それでもあんたは神の子救い主か！」と**わめく**ことだってしかねなかったでしょう。なにしろ彼は社会的身分の高い**王の役人**なのです。一方、主イエスの身分はナザレの村大工です。

それとも「一緒に来てくれないなんて！」と落胆の余りに、歩き続けた疲れがどっと出て、**へたり込んだ**かもしれません。途方にくれ、**絶望の涙**にくれたかもしれません。

〔2〕信仰に生きる姿

ところが**この父親は違いました**。「帰りなさい。あなたの息子は生きる。」とおっしゃる**主の言葉を、その通りに信じて**、すぐさま我が家に引き返したのです。どうしてそのようなことが出来たのでしょうか。それは主からいきなり、こう言われたからです。「あなたがたは、**しるしや不思議な業を見なければ、決して信じない**」

そうです。私たちは結果を見ないうちは、おいそれと信じません。人間の言葉は余りにも口先ばかりで、内容を伴わず、信用を失っています。だからその人の行う業、実践を見た上で信じようとなりがちです。しかし主イエスは、**ご自分の言葉を聞いて、それをそのまま信じるように**とお求めになります。

次の5章でも、38年も苦しんできた病人を主が癒すと、ユダヤ人たちは主を殺そうとしました。それに対して言われました。「はっきり言うておく。**わたしの言葉を聞いて、わたしをお遣わしになった方を信じる者は、永遠の命を得る**」(ヨハネ5:24)。主イエスの業を**見て神がわかったら**、永遠の命をいただけるというわけではありません。主イエスの**言葉を聞いて、父なる神を信じる時に**、永遠の命をいただけるのです。見てわかっただけのと、信じることは、全く違うのです。

そこで主はこの父親にも念を押されました。「あなたは**癒しの業**を見て納得したいのか。それとも**私の言葉を信じて命を得たいのか**」。勿論主は、信じて命を得ることを切に望んでおられました。だからきっぱりとおっしゃいました。「(独りで) 帰りなさい。あなたの息子は生きる」——この役人は親として非常に厳しい状況に立たされていたにもかかわらず、**主のお言葉に賭ける決心**をしまし

た。そして「帰りなさい」というお言葉に従ったのでした。

時刻は**午後1時頃**でした。彼は前の日の昼に家を出発して歩き通したのでしよう。一刻も早く我が子の所に戻ろうとすれば、これから再び夜通し歩いて帰ることになります。死にかかっているあの子が、果たして良くなってくれるでしょうか。**夜の闇の中を歩く**とは、我が子を失う**不安と恐れ**の中を歩いて行くことを表しています。でも彼は主イエスのお言葉に賭ける決心をしました。そして「あなたの息子は生きる」とおっしゃる**お言葉をひたすら大事に抱きかかえて**、夜の闇を歩き通したのでした。本当に偉いですね。

「**信仰がなければ、神に喜ばれることはできません**」という言葉が、聖書に記されています（ヘブル11：6）。神さまは私たちに**信仰を求めておられる**のです。そして私たちの信仰をお喜びになって、**応えてくださる**のです。この父親も「あなたの息子は生きる」とおっしゃる**主イエスの言葉を信じて**、再び我が家に向かって遠い道を歩き始めました。その姿を主はどんなに嬉しく見つめておられたことでしょうか。そしてこの時に遠く離れた彼の家で、**神の癒しの業**が行われたのでした、

一方カファルナウムの彼の家では、午後の1時頃から、病んでいる子どもの熱が急に下がり出して、危篤状態が好転し始めました。そこでこの朗報を一刻も早く主人に伝えようと、僕たちの幾人かがカナに向かって出発しました。そして翌朝早く、カファルナウムとカナの**中間地点**で主人と出会ったのでした。夜の闇が去り、**朝日の輝き**と共にこの父親は**喜びの知らせ**を得たのでした。

彼は次の日の朝まで嬉しい恵みを知らずに、暗い夜道を独り歩き続けました。心に湧いてくる不安や恐れと戦いながら、「**あなたの息子は生きる**」というお言葉にひたすら信頼を寄せて、歩き続けたのでした。これが**信仰に生きる姿**なのではないでしょうか。神は私たち一人一人を誰よりも深く真実に愛して下さいます。私たちが真実な心をもって神に相對するならば、**必ず**助けて下さる、恵みを与えて下さいます。

ダビデは「主よ、**御旨にかなう時に**、私に答えて**確かな救い**をお与えください」（詩編69：14）と歌っています。私たちは**今すぐ**にかなえて欲しいと思います。でもダビデは「**神が一番良いと思われる時に**かなえてください」と祈りました。そうです。**その時を信じて**、たとえ行く手が闇であろうとも、進んで行くのです。これが私たちの信仰ではないでしょうか。

【3】神の言への6才の応答

宗教によっては、荘厳な儀式や供え物を捧げることを中心にした信仰とか、厳しい戒律を守り、修業や善い行いを積んでいくことを中心にした信仰とかいろいろあります。しかし**聖書の信仰の特色**は、神の語りかける言葉を聞いて応答していくことにより、神と私たちとが**言葉でつながっていく**点にあります。ですから主イエスは、供え物や献金用の商売をしている商人を、神殿から追い出されたのでした。

角川漢和辞典は「言」を「**口から表現される心**」と解説しています。そうです。私たちは心にある考えや感情を言葉で相手に伝えます。それと同じように神はご自分の心に溢れる愛を、**言**ではっきりと伝えて下さいました。それが**イエス・キリスト**です。主イエスは十字架にかけられながら、「キリストなら降りてきて自分を救え」とののしる人々のために「**父よ、彼らをお救しく下さい。自分が何をしているか知らないのです。**」と祈りつつ、彼らの救いのために死んでいけられました。このイエス・キリストに於いて、**神はご自分の愛を、完全に現わされました。**ですからイエス・キリストは「神の言」なのです。

今日は大久保教会の**小松澤恵音楽主事**を迎えて、月に一度、その賛美指導のもとに礼拝を守ることが出来ていますことを、感謝します。小松澤主事は幼児時代に、父上の転勤で東京から札幌に来られ、札幌教会附属ひかり幼稚園に入園されました。そこで日曜日には、幼稚園の礼拝・分級後の教会の礼拝にも、家族一緒に出席しておられました。

或る日曜日のことです。教会の礼拝が終わって私が牧師室に戻っていると、しばらくして牧師室のドアが開き、「牧師先生」という声がしました。「はい、どなた？」と返事しましたが、声の主は見えません。「どなたですか？」「恵です」。背が小さいのでソファーのかげに立って居る彼女が、私のデスクからは見えなかったのです。私の方から近寄って身をかがめました。「**牧師先生、イエスさまを救い主と信じます。バプテスマを受けたいです**」「そう、今日の礼拝で決心したの？」「ハイ」「それは素晴らしいね。そしたら先ずお父さんとお母さんにちゃんとお話しなさい。そして幼稚科の先生とバプテスマを受ける準備をしていこうね」と言ってお祈りをしました。

それから直ぐに両親に電話して、「未だ小さいから**早過ぎる**などと言わないように。一人一人与えられた決心の時があるのだから、分級の先生に任せたら」

と頼みました。そして6才、幼稚園の年長組時代にバプテスマを受けました。それから30数年、信仰生活を継続・成長して、このように良い働き人として活躍されています。嬉しいことです。

6才の時の決心は、彼女が自分の心で聞き取った主キリストの言葉に、6才の彼女としての信仰の応答でした。ですから今日まで一筋に、信仰生活を続けてこられたのではないのでしょうか。

【結】 聞いて信じて進む

私たちは今、聖書の言葉を読み、聞いています。パウロは言いました。「実に、**信仰は聞くことにより、しかもキリストの言葉を聞くことによって始まる**のです」(ローマ 10:17)。そうです。カファルナウムの父親も、キリストの言葉を聞き、応答の行動を起こしました。

またダビデは「主よ、**御旨にかなう時に、私に答えて確かな救いをお与えください**」(詩編 69:14)と歌っています。カファルナウムの役人も、夜の闇に向かって、再び歩き始めました。そして**喜びの朝**を与えられました。神さまは、主イエスを十字架におつけになるほどに、私たちを愛してくださっている神さまです。御旨にかなう時に、私たちのそれぞれの祈りを、**必ず聞き届けてくださる**のです。感謝します。

キリストの言葉を**聞き続けましょう**。「あなたの息子は生きる」という主の言葉を信じて、歩んで参りましょう。今日、その御言葉を聞き取ったお方は、その決心を、主にはっきりとお答えになって下さい。

祈ります：主なる神さま、私たちも「あなたの子は生きる」と語って下さるあなたの御言葉を聞いて、「帰りなさい」との御言葉通りに従う者にして下さい。行く手に夜の闇が待ち受けていても、御言葉を信じて進んで行く者にして下さい。そしてあなたの御心に適う時に、私たちの祈りを聞き届けて下さいますように。私たちの多くは、老いてきました。夜道に向かって歩く者です。しかしあなたは、恵みの朝を備えて下さっています。全てをお委ねして、進みゆく者にして下さい。幼い者には幼い者なりに、あなたの御言葉に聞き従って進む者にして下さい。救い主イエス・キリストの御名によって、お祈りします。

アーメン